

# インドネシア国内航路 DLU フェリー

## 元さんふらわあさつま 乗船記

近藤貴行

2026年2月に、スラバヤ～バリクパパンにみやざきエクスプレスで渡ったのち、復路に元さんふらわあさつま（1993年三菱重工建造）であるDLUフェリーの、ダルマフェリー7に乗船した。

今航は、6時にバリクパパンを出港、スラバヤには翌日14時39分到着の31時間39分（時差1時間）の航海となる。

### ① 予約・乗船

スラバヤのダルマフェリーの事務所で購入。窓口の女性は英語が通じなかったが、警備の若者が通訳してくれた。

エコノミークラスしか残っていなかったが、エコノミーにも種類があるようで、今回は元ドライバールームだったようで、往路のみやざきエクスプレスよりはるかに快適だ。

ターミナルは、町なかから5kmくらいで近い。6時出港のため3時半ごろ到着したが、港入口の前の屋台はかなり開いており明るい。ただしターミナルの建物自体は無いため、ゲートを入ると直接フェリーの右舷後方のランプに行き予約確認書のQRコードを読みとってもらい、ボーディングパスを発行してもらう。このボーディングパスは、支給される弁当の引換えに必要となる。また手首に紙のバンドを巻かれるが、船内で識別するためクラスごとの色違いである。

船は前夜には港に到着していたため、乗船した時にはかなり混みあっていたのだが、みやざきエクスプレスと違い雑魚寝している人が多数いた。席なしのチケット

があるのか、エコノミーがいっぱいで仕方なく雑魚寝していたのか分からないが、外部デッキにもいたから 200 人くらいいたかも知れない。

自分のベッドにたどりついた時には 4 時くらいだったため、すぐに就寝。といっても部屋自体に消灯もなく、話し声や音楽も聞こえてくる。夜中だから他の就寝中の客に迷惑がかからないようヘッドホンで聞くということもなく、普通の音量だ。

## ② 車両甲板

ランプは右舷後方のみを使用。

車両甲板は、大型トラックが中心。

## ③ 旅客設備の配置

旅客設備自体は、

日本時代 A デッキの前方から

フォワードサロン→エコノミークラス（雑魚寝）

アウトサイド特等→VIP クラス

インサイド 2 等寝台→エコノミークラス（設備はそのまま）今回利用

アウトサイド 1 等→キャビンクラス

和室→モスク

サロン→エコノミークラスのシート席、歌のステージがある

インサイド 2 等和室→エコノミークラス（雑魚寝）

B デッキは前方から

アウトサイド 1 等→キャビンクラス

インサイド 2 等寝台→ドライバールーム（ruang pengemudi）

スナック、売店、フロント→そのまま

ゲームルーム→エコノミークラス（2等ベッド）

大浴場→閉鎖されてデッドスペース

インサイド 2 等和室→サロン

アウトサイド 2 等寝台（ドライバー1 段ベッド）→そのまま

今回は乗船客が多く、フロントがあるエントランスホールを中心に多数の雑魚寝客がいた。この船は展望通路のような広いパブリックスペースが無いため、船内にはエントランスホールしか雑魚寝ができるスペースが無い。

#### ④ 乗組員

女性は一人も見なかった。唯一エンターテイナーの歌手のみである。また船内でベッドまで案内してくれたクルーや、先日ロンボク島の DLU フェリーの事務所で、さんふらわあという名前を知っていたから、案外有名なのかも知れない。

#### ⑤ キャビン

今回もエコノミークラスだったが、元の A デッキ前方インサイドの 2 等寝台だった。設備はそのままのようだったが、ベッドごとのカーテンは外され、枕元灯があったと思うが代わりに充電用 USB コンセント（タイプ c ではない）が新設されていた。

#### ⑥ メンテナンス・船内状況

内装は 2018 年に日本を離れて 8 年近く経つのだが、トイレを中心にかなりくたびれてる感じがする。

この船も、トイレの個室にシャワーが後片付されているので、床が常に濡れ

ている。使用が集中すると、ドアを開けた瞬間に水たまりである。またトイレ前のカーペットも濡れている。船内は少数だが大人でも裸足で歩く人がいたのだが、トイレに裸足で入っていく女性を見たときはゾッとした、何しろその足でベッドにもぐり込むのだがら。トイレはなぜか水洗でなくなっており、手動でシャワーヘッドを使い流すのであるが、水が必ず身体にはねかえってくるという代物だ。なおインドネシア国内のホテルは、安いホテルでも普通の洋式トイレである。

#### ⑦ 外部デッキ

船内にあまりくつろげるスペースが無いことから、日中はデッキに人が集まるのだが、あまり外部デッキに開放されている場所は少ない。かつてのプロムナードデッキの後ろ半分と A デッキの後部に日よけの屋根が設置されているが、とても狭い。また A デッキの煙突まわりに仮設の小屋が設置されているが工事中のため、エコノミークラスを増やすのかも知れない。

また外部デッキにはベンチがわずかにあるだけなので、大半の人はあぐらで座っているのだが、日本人的には濡れて汚れているデッキに平気で座れる感覚が信じられない。乗船客は飲食した後片付けをする人が少ない。ゴミ箱はすぐ近くにあるのだが。コーヒーを紙コップを飲んだあとそのままにして、風で倒れてデッキを汚すのも多数見られる。クルーが定期的に掃除をするが、何しろ乗船客が多いから追いつかない。

#### ⑧ レストラン

元のレストランが、そのまま有料レストランになっているが、メニューはインドネシアの家庭料理のようだ。基本的には全食弁当支給のため、レストランを使用する人は少ない。元のグリルは閉鎖されていた。

弁当は船内放送が入り取りに行くのだが、元特等と 1 等はクルーが部屋に運ん

でくれる。

#### ⑨ ステージ

エコノミークラスの椅子席にステージが設けられて、インドネシア語の歌のショーが行われていた。DLU フェリーでは必ずステージがあるのだが、あまり人気は無い。

#### ⑩ 航海

常時 16 ノット程度で揺れもなく順調な航海で少し入港は遅れるぐらいかと思っていたが、スラバヤの湾内に入って停止。何と動き出したのは 5 時間後、何度か船内放送が入るがインドネシア語のため分からないが、たぶん遅れる理由や時間の説明しているのだろう。

日本であればいっせいに文句が出るが、この船ではまったく反応が無い。遅延が当たり前なのだろうか。結局 14 時 39 分着から 7 時間近く遅れて 21 時 25 分に入港した。これだけ遅れても文句ひとつ言わないインドネシアの人には、驚きだ。

日本では颯爽としたイメージだった、さんふらわあさつまだったが、今回は乗船客の多さもあったがあまりの不衛生さが気になって仕方がなかった。これまで 37 隻ほど海外のフェリーに乗船してきたが、残念ながらワースト 1 の印象であった。



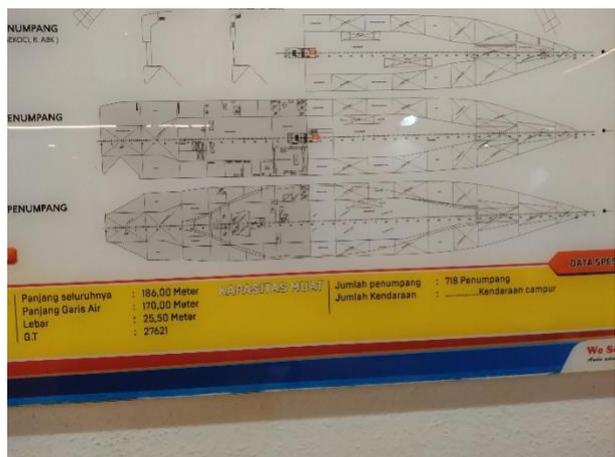
**さんふらわあ さつまるきりしま主要目**

- 総トン数.....約12,000トン
- 最大馬力.....34,200馬力
- 航海速度.....23.0ノット
- 長さ.....186.0m
- 幅.....25.5m
- 深さ.....8.7m
- 淡水艙水.....6.6m
- 車両搭載数
- 乗用車.....140台
- トラック(8.5m).....175台

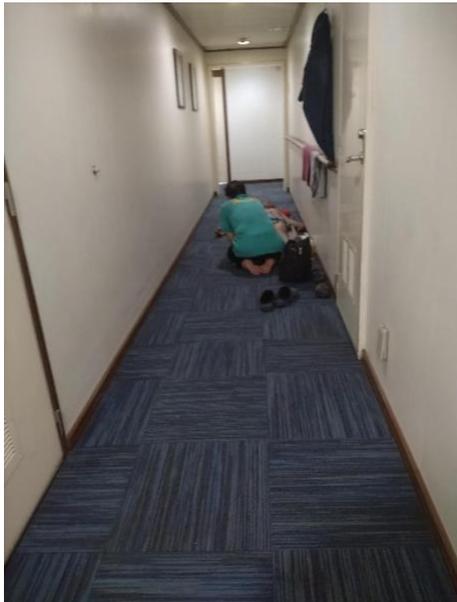
**さんふらわあ さつまるきりしま客室定員**

- 旅客定員.....711名
- 特等 [ツインインソファベッド] 2名×10室 = 20(30)名
- 1等 A [ツインインソファベッド]×34室 [3名和室]×2室 = 74(108)名
- 1等 B [4名+1]×28室 [1名洋室]×9室 = 121(149)名
- 2等寝台 [4名]×24室、[6名]×24室 = 240名
- 2等 [31名]×2、[30名]×1、[12名]×1 = 104名
- ドライバーズ = 80名

株式会社ブルーハイウェイライン 〒541 大阪市中央区備後町4-1-3 御堂筋三井ビル6F  
 ☎06-203-4451 ■鹿児島支店 ☎0992-22-4511 ■志布志(営) ☎0994-73-0661



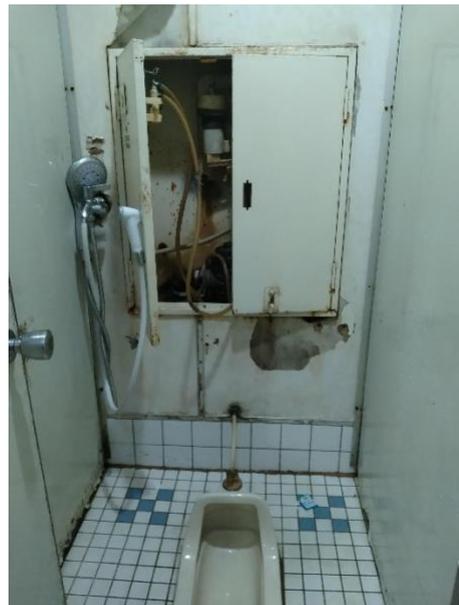




中段右 エコノミークラス 下段左 マッサージルームもお客さんを入っていたので廊下で施術 下段右 元ドライバールーム



上段右 元フォワードサロン 中段 エコノミークラス  
下段 元1等



上段左 モスク

下段左 エコノミークラス椅子席 下段右 トイレ兼シャワー



上段左右 中段左 レストラン (有料メニュー)

